

第1回

8月3日(土)
10:30~12:00

「せんだい3.11メモリアル交流館」見学と井土メダカのお話

会場：せんだい3.11メモリアル交流館

地下鉄東西線荒井駅の中にある“せんだい3.11メモリアル交流館”を見学。その後は農業地域・井土に生息していて、被災したメダカのお話を聞きます。

案内人：棟方有宗先生(宮城教育大学)
丹野明夫さん(メダカ里親)



★若林区ふるさと支援担当主催パネル展 『井土メダカのふるさと一六郷東部地区まちづくりのあゆみ』同時開催

第2回

9月7日(土)
13:30~16:30

震災遺構仙台市立荒浜小学と津波避難ビルの見学

会場：震災遺構仙台市立荒浜小学校
笹屋敷津波避難ビル

地下鉄東西線荒井駅の中にある交流館に集合！市営バスに乗って、みんなで震災遺構仙台市立荒浜小学校へ。その後は笹屋敷津波避難ビルに上ってみます。

案内人：震災遺構仙台市立荒浜小学校のスタッフの方
仙台市危機管理室減災推進課
地域支援係の方

記憶、現在

東日本大震災から
8年が過ぎました。

そして未来へ

全3回

この回は
どなたでも
直接会場へ

もう一度見つめ直して
みましょう！

対象：どなたでも 50人
(先着順)

※第3回のみ希望の方は、当日直接会場へ

費用：無料

申込み：7/3～窓口、電話

【申込み・お問い合わせ】

(公財) 仙台ひと・まち交流財団
仙台市青葉区中央市民センター
〒980-0811

仙台市青葉区一番町2-1-4

電話 022(223)2516

FAX 022(261)3251

よみ芝居

「あの日からのみちのく怪談」

演劇ユニット「コマイぬ」による、東日本大震災にまつわる不思議な物語をおおくりいたします。怖ろしいというよりも、どこか哀しくそれでいてぬくもりのあるお話の数々を、ギターとバイオリンの生演奏を伴ってお楽しみいただきます。

10月13日(日)
14:00~15:30
開場：13:30

会場
青葉区中央市民センター
3階 ホール

第3回

せんだい3.11 メモリアル交流館

地下鉄東西線「荒井駅」駅舎内にあり、東日本大震災前を知り学ぶ場であるとともに、津波により大きな被害を受けた仙台市東部沿岸地域への玄関口。1Fは、東部沿岸部の立体地図や震災前後のスライドなどがある交流スペース、2Fは、写真と文章で仙台の復旧・復興の様子が時系列で解る常設展と企画展を備えた展示室、3Fには、周囲の田園風景が楽しめる屋上庭園がある。



せんだい3.11メモリアル交流館（地下鉄東西線荒井駅舎内）
〒984-0032 仙台市若林区荒井字沓形 85-4
電話 022-390-9022

震災遺構 仙台市立荒浜小学校

海岸から約700メートル内陸に位置し、2011年3月11日に発生した東日本大震災では、児童や教職員、住民ら320人が避難し、2階まで津波が押し寄せた。津波による犠牲者を再び出さないため、その校舎を震災遺構として2017年4月30日より公開し、津波の脅威や教訓を後世に伝えている。

芝原 弘

1982年宮城県石巻市生まれ。俳優。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻卒。劇団黒色綺譚カナリア派所属。東京にて小劇場・中劇場の様々な舞台に立ち、2012年には児童劇団に参加し1年間全国の小学校で公演。2013年からは故郷の石巻市に演劇を届ける為、演劇ユニット「コマイぬ」を旗揚げ。以来、宮城県内各地と東京を結ぶ演劇活動を展開。代表作のよみ芝居「あの日からのみちのく怪談」は、上演を重ね、今年4年目を迎えた。2016年「いしのまき演劇祭」の立ち上げに参加。現在、いしのまき演劇祭実行委員会副委員長。2019年には三陸芸術祭連携プログラムとして岩手県大船渡市に於いて「シシオドリ海を渡る」の公演に参加。2020年の再演も決まっている。2019年6月より拠点を東京から宮城に移し、鋭意活動中。

黒色綺譚カナリア派(活動停止中)に所属する芝原弘による演劇ユニット。2013年3月より活動を始め、芝原の故郷である宮城県石巻市に於いて演劇文化の常在を最大の目標とする。ストレートプレイの上演に限らず、親子向けの絵本をもちいたお話し会や、小スペースを使ってのリーディング公演など、活動は多岐に渡る。東京など被災地外での活動に於いては、東日本大震災の被災地の事を思い出してもらう為のきっかけ作りとしての表現・創作活動を、また、故郷である石巻などの被災地での公演に於いては、「レクイエムとして演劇」の創作にも注力し、被災地内外で演劇活動を積極的に行っている。代表作に「ラッツォクの灯」(原作・熊谷達也)、「舞台拝み屋怪談」(原作・郷内心瞳)など。2016年初演のよみ芝居「あの日からのみちのく怪談」(荒蝦夷刊)はレパートリー作品として宮城県内各地の他、東京都内各地や長野県に於いても上演を重ね、今年2月には宮城野区文化センター・パトナシアターにて上演、200名を動員。2018年3月より「月いちよみ芝居」と銘打って、石巻地域に於いて毎月、朗読会を開催中。

棟方 有宗

1972年東京都生まれ。日本学術振興会特別研究員を経て宮城教育大学生物学教室准教授。オレゴン州立大学客員教員。子供の頃から虫とりや魚とりに親しみ、現在は主に魚や川虫などの生き物を研究している。趣味は魚釣りやカヌー(SUP)で、四万十川やアラスカの川をキャンプをしながら下っている。2011年の東日本大震災の前年から、仙台市の沿岸にわずかに残っていた井土メダカを保全のために飼育しており、震災後は津波で失われた彼らの生息環境を復活させるため、八木山動物公園等と協力してメダカの里親活動や田んぼビオトープの運営に取り組んでいる。

メダカ(井土メダカ)

以前は仙台市沿岸の田園の一角で暮らしていたが、東日本大震災の津波で生息地がほとんど失われてしまう。現在は仙台市内外の里親のもとや八木山動物公園、仙台うみの杜水族館などで避難生活を送っているが、最近になって新たにつくられた田んぼビオトープなどに移動を開始している。今後は元のふるさとに近い東六郷にも新たなすみかがつくられる予定。

丹野 明夫

自宅の畑の一角にビオトープを作って井土メダカを育てている。

